

3-10 大学情報化職員研修会

本研修会は、教育研究および人材育成の支援の積極化を図るため、職員の意識改革を促進するとともに、情報技術を活用した業務の改善、基盤情報としてのデータベースの構築、教員の情報技術活用能力の研修、大学全体のネットワーク環境、eラーニングをはじめとする教育システムの整備など大学改革に不可欠な課題について、講演・討議を通じて職員一人々の資質向上に寄与することを目的として開催するものである。なお、研修会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：南 雄三、獨協大学）が担当した。

（1）開催要項の決定と実施準備

昨年度、運営の合理化と会議施設・設備の充実を目指して、関西大学を会場として1日程で開催したが、参加者側にとっては、参加機会の減少となり大幅な参加者数の減となった。また、合宿研修による人的交流の意義も大きいことから、本年度は会場をホテルに合宿研修とし、日程を分散して2回に戻すこととした。

プログラムは、全体会と分科会とで構成した。全体会では、獨協大学による教育支援室の事例紹介と個人情報保護に関する解説を各日程共通のプログラムとし、それに加えてA日程では、斎藤信男氏（慶應義塾大学常任理事）による基調講演、B日程では運営委員による教育支援のあり方についてのパネルディスカッションを実施し、教職協働の重要性を共通理解することとした。

分科会では、業務およびテーマ別の14分科会を設けた。本年度は、最近の重要な課題である「産官学連携」、「高大連携・生涯学習・オープンカレッジ」について、新たに分科会を設け、ITを活用した新しい教育支援のあり方、大学改革への関与、業務の改善等について討議形式で進めることとした。

平成16年度大学情報化職員研修会開催要項

1. 研修目的

本研修会は、教育研究および人材育成の支援の積極化を図るため、職員の意識改革を図るとともに、情報技術を活用した業務の改善、基盤情報としてのデータベースの構築と活用、教員の情報技術活用能力の研修、大学全体のネットワーク環境、eラーニングをはじめとする教育システムの整備など大学改革に不可欠な課題について、討議や事例研究等を通じて職員一人々の資質向上に寄与することを目的とする。

2. 参加資格

加盟大学教職員：当協会加盟大学・短期大学の職員。一部分科会では教員も対象とします。

賛助会員：本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方。

3. 開催日程・会場

A 日程：10月6日（水）～8日（金）

B 日程：10月13日（水）～15日（金）

会場：ホテル日航豊橋

（〒441-8061 愛知県豊橋市藤沢町141 TEL:0532-48-3131）

※ 本年度は合宿形式で実施します。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。

※ 原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

4. 分科会

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解を深めます。※A-3, A-7, B-5, B-6 分科会では教員も対象とします。

A 日程：10月6日～8日

A-1 ITを活用した学修支援システム

A-2 財務・会計管理

A-3 教育学術情報の提供支援

A-4 インターネットを利用した戦略的学園広報

A-5 産官学連携

A-6 高大連携・生涯学習・オープンカレッジ等

A-7 情報化推進組織の運営管理

B 日程：10月13日～15日

B-1 学生基本情報管理

B-2 キャリア支援

B-3 入学業務

B-4 人事・給与

B-5 教育支援（授業運営支援、知財管理含む）

B-6 学園情報基盤整備

B-7 ITを利用した協業システム

〔全体会〕

テーマ：「教育研究支援・人材育成支援を実現するための情報化戦略」

今、大学は評価の時代を迎えており、教育研究活動全般に亘って大学の説明責任が問われている。そのような中で大学は、教育研究及び人材育成を積極化するための一方策として、情報技術を活用した支援のあり方について組織的に検討することが避けられなくなってきている。

そこで、教育研究支援・人材育成支援のあり方について日々の業務を通じ

てどのように関わることが望ましいのか、支援内容、支援方法（教職協働含む）、環境整備（情報システム含む）、組織・体制などについて、参加者の体験や計画をお互いに披瀝しあい、総合的に研修する。

全体会では、上記の趣旨を踏まえ、大学として組織的に教育支援に取り組んでいる事例を紹介しながら、これからの職員に求められる意識改革の必要性を共通理解として持つことを目的に実施する。

（２）開催結果と次年度の計画

参加者は110大学、3短期大学、賛助会員8社の総勢294名であった。開催結果の詳細は資料編【資料13】を参照されたい。

獨協大学教育支援室の事例紹介では、教員が期待する教育支援のあり方と職員に求められる役割、支援室立ち上げの経緯など、具体的な教職協働の形が示され、参加者にとっては、研修会の趣旨を理解するのに非常に有効であった。

次年度は、分科会を充実するための方策として、参加者によるミニ事例発表以外にも、運営委員が事例を収集して、適切な人材に事例発表を依頼することも検討している。参加者募集の観点からは、センター部門からの参加者が減少傾向にあることから分科会の内容を見直すこととしている。

